

# いの流水俳壇

## 「当季雑詠」

松尾 満津於選

土くれになり切っている根切虫

間 浩太

〔評〕根切虫は土の中に居て、その存在がなかなか確かめにくい。草花や野菜などの苗が、或朝突然に枯れたり、倒れていることがあるが、それは殆ど根切虫の仕業である。探して捕まえてみないと、その存在がわからない。正に土くれになり切っている根切虫。

岩礁もオブジェと成せる初夏の海

森元二美子

〔評〕「春の海終日ひなもすのたりのたりかな」は江戸時代中期の俳人で画家だった、与謝蕪村の春の海の句である。この表句は「初夏の海」決して句を比べるのではないが、結構初夏の海を感じがよく見えている。「オブジェ」は日常的な普通のあり方ではなく、独立した効果を出すために、作品に取り入れる物体や、現象のことを指すが「初夏」というのは新緑、若葉、更衣等の候で入梅の頃までの季節。活気を増殖させつつ暑い夏に移行する中で、岩礁に打ち寄せる波のことを指している。

夏草に埋もれし百の棚田かな

竹崎 光子

〔評〕棚田は日本国中何処に行っても存在する田園風景である。水と石、労力が整

えば何処にでも整地出来たし日本の稲作文化も棚田の占める部分が多かった。然しその棚田も地球的環境の変化や、農業人口の減少により、農山村に往年の姿はなくなつた。草に埋もれし「百の棚田」は数字の棚田ではなく、大半の減少を意味している。一と度荒廃した棚田は、再び水田に返ることがないという、山村農業のきびしさが籠められた句。

木下間知る人も無し遍路墓

大川 節弥

〔評〕天日を覆い茂つて、ほの暗い樹下の様子が、木下間である。そこに眠る誰も知らない無縁墓、遍路の途中で死亡して此処に納まつたのであろう、供花する人も無く苔むすままに埋もれゆく様が、何とあわれであることよ。

よりそいし二見の岩や初夏の波

中野 好子

〔評〕お伊勢参りを兼ねての吟行であろう。二見が浦には沖に二見興玉神が祭られ、手前の夫婦岩が自然の鳥居を形づくりに注連縄が張られている。家族構成も全く承知のないまま、あれこれ想像する不謹慎を容赦願えるとすれば、上五に「よりそいし」と殊更にしたのは多分、夫婦揃つてのお伊勢様だっただろう。のちのちまでも思い出に残る二見の初夏の海。

菓子銘は星のしずくよ走り梅雨

植田 紀子

旗縫せて夏草茂る分譲地

岡本とも子

掌掴いに螢移す小さき手

刈谷 志津

雨を恋ふ山紫陽花の濃紫

津田 久美

区切りなき農婦の仕事遠蛙

川村 博子

片陰や犬も寄り来る遊歩道

片岡 包女

羅うすものや母ありし日の鯨尺 井上 郁子

新樹の気とけて流れ来モノの庭 川上こよね

老鶯の歓迎に会うモノの庭 川村千因子

斑猫はんみょうの山路に欲しき道しるべ 楠目 哲郎

〔山道などで人の先を「ヨシピン」跳んで行く小さな昆虫道おしえ入梅のニュースも話の種となる 立木ゆう子

紫陽花や人それぞれに迷いなく 森岡 照月

新緑や一雨欲しいと言っている 筒井 眉躬

藍染の浴衣に肌の白さかな 渡辺万利子

田植えすみ一安心の夕餉かな 筒井 文

右左健康体操風薫る 弘瀬うき子

横綱の笑顔にラクダ芥子けしの花 川村 愛

宿下駄のゆるき鼻緒や河鹿笛 伊藤 たみ

廃屋の屋根の軒にも燕の巣 筒井 一平

走り梅雨主なきベツト置きしま、 友草 水月

緑濃き煎茶の句ふ更衣ころもがえ 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」  
締め切り 毎月15日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

■ お詫びと訂正

「広報いの」7月号に掲載の「流水俳壇」の中で

この里に一子いありけり鯉幟 大川 節弥

聴診器きらりと立春はる年重ね 伊藤 たみ

となつています(イ)はり、(ロ)は夏の誤りでした。お詫びして訂正します。

△訂正後▽

この里に一子ありけり鯉幟 大川 節弥

聴診器きらりと立夏年重ね 伊藤 たみ



## ビーズアクセサリーサークル 夏休み親子教室

親子でビーズアクセサリーを作ってみませんか?  
好きな色のビーズで自分だけのアクセサリーを自分  
分にプレゼント!!  
手ぶらでお気軽に参加してください。



- ▶ 日 時 8月24日(金)13時~15時
- ▶ 場 所 伊野公民館
- ▶ 定 員 親子20組
- ▶ 材 料 費 ネックレス 1,500円
- ▶ 申込・問い合わせ

岡林 敏子

昼間 ☎ 850-4015

夜間 ☎ 892-1550